

はじめに

市民をはじめ関係者の皆様方には、豊田市矢作川研究所の調査研究活動及び運営に、日々多大なご支援、ご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。このたび、1年間の調査研究成果を取りまとめました「矢作川研究No21」を発刊することができました。ご一読いただき、ご意見等いただければ幸いです。

さて、研究所では、平成28年6月に「豊田市矢作川河川環境活性化プラン*」を策定しました。研究所は、平成6年度に策定された「豊田市矢作川環境整備計画」に掲げられた課題に対する学術研究を進めるため、“一つの川に一つの研究所”を合言葉に矢作川流域のシンクタンクとして設立されました。以後、20年余が過ぎ、流量の減少や外来種の侵入など矢作川を取り巻く自然環境や社会環境が変化し、新たな課題への取組みも必要となってきました。このため、これらの新たな課題に対応し、次世代を担う子供たちに自然豊かな矢作川を引き継ぐため、「豊田市矢作川環境整備計画」のリニューアル版として「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」を策定しました。このプランには、矢作川の将来像として“めざす矢作川の姿”を掲げるとともに、その具現化に向けた取組みの実施にあたり必要な学術研究などがまとめられており、今後研究所が進む道標ともなっています。こちらも、ぜひご一読いただければ幸いです。

2015年に、名古屋市は天然アユを絶滅危惧種に、岐阜市は長良川の天然遡上アユを準絶滅危惧種にそれぞれ指定をしました。研究所は、矢作川でこのような話題がのぼることなく、天然アユが元気に暮らし続ける川づくりを目指し、一つ一つの課題に全力で取り組んでいきます。今後とも多くの皆様の限りないご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

【*矢作川研究所HPでご覧いただけます】

平成29年3月

豊田市矢作川研究所 所長
早川 匡